

平成19年度第1回・広島県大学図書館協議会研修会
2007年(平成19)年9月25日(火)13:00~16:00
広島大学中央図書館 ライブラリーホール

研究者から見た機関リポジトリ

玉岡賀津雄 (たまおか かつお)
(大学) 〒739-8524 東広島市鏡山1丁目1番1号
広島大学・留学生センター・教授
電話とファックス: 082-424-6288
E-mail: ktamaoka@hiroshima-u.ac.jp
ホームページ: <http://home.hiroshima-u.ac.jp/ktamaoka/>

論文の3層構造

1. Journal Citation Report (JCR)に掲載されている論文

2. 日本国内の主要な学術誌に掲載されている論文

3. 大学の紀要や報告書などに掲載されている論文

Journal Citation Report (JCR)

- Journal Citation Reports on the Webは、世界の主要**学術雑誌を評価**するための組織的な手法であるといわれている。
- 自然科学版と社会科学版があり、約200の専門分野を網羅している。
- 7,000誌以上の最も引用され、なおかつ**国際的評価の高い学術雑誌を選んで収録**されている。
- 図書館員、出版社、編集者、著者、情報管理・情報サービス担当者にとって、学術界における雑誌の重要度を測るための有用な指標を提供するツールである。
- 学術誌の「**影響度 (Impact factor)**」- 特定の1年間においてある特定雑誌に掲載された論文が平均的にどれくらい頻繁に引用されているかを示す尺度。同分野の学術誌の重要度を相対的に比較することができる。

Journal Citation Report が作り出したもの —エリート主義的な**学問の集中化**—

評価の高い学術誌へ論文を掲載しようとする。(学術評価に使用されはじめた。)



評価の高い学術誌だけで研究が展開されるようになる。



Journal Citation Reportに選ばれた学術誌にレベルの高い論文が集中。

Journal Citation Reports on the Web (JCR)に掲載された論文だけを引用し、JCRに選ばれた学術誌に投稿する。その結果、学術活動そのものがJCRに集中する。

NATURE, Vol. 431, 2 SEPTEMBER 2004

Biological abnormality of impaired reading is constrained by culture

Wai Ting Siok, Charles A. Perfetti, Zhen Jin & Li Hai Tan

JCRに掲載された論文だけの引用

Eden, G. & Moats, L. The role of neuroscience in the remediation of students

with dyslexia. **Nature Neurosci** 5, 1080–1084 (2002).

Horwitz, B., Rumsey, J. M. & Donohue, B. C. Functional connectivity of the angular

gyrus in normal reading and dyslexia. **Proc. Natl Acad. Sci. USA** 95, 8939–8944

(1998).

Aylward, E. H. et al. Instructional treatment associated with changes in brain

activation in children with dyslexia. **Neurology** 61, 212–219 (2003).

Paulesu, E. et al. Dyslexia: cultural diversity and biological unity. **Science** 291,

2165–2167 (2001).

Tan, L. H. et al. The neural system underlying Chinese logograph reading.

Neuroimage 13, 836–846 (2001).

Tan, L. H. et al. Neural systems of second language reading are shaped by

世界で学術的に認められる方法！？

JCRのなかでもトップレベル(影響力指標の高い)の学術誌に論文を掲載すれば、世界の学術界で認められる。

図書館無用論の起源とリポジトリの必要性

- JCR掲載論文は、Web上で検索できるので、図書館へ行く必要がなく、**研究室のコンピュータで検索**ができる。
- JCRに掲載されているような学術誌に掲載された論文は、PDFファイルとして**研究室のコンピュータでダウンロード**でき、**印刷することも可能**であり、図書館へ行って紙媒体の出版論文を見つける必要がない。
- そして、図書館が無用であるという結論へとつながる。



この世界の研究論文は、Web上で容易に入手できるので、**機関リポジトリはあまり活用されない**と思われる。

論文の3層構造

この世界の論文では
機関リポジトリはあまり
使われない。

1. Journal Citation Report (JCR)に掲載されている論文

2. 日本国内の主要学術論文に掲載されている論文

3. 大学の紀要や報告書などに掲載されている論文

日本国内の学術論文

- 日本語の学術論文は、国内でトップの学術誌に掲載されても、国際的に読まれることがほとんどない(日本語は国際的な学術用語ではないため)。
- 学術レベルの高い論文であっても、日本語で書かれているために世界的には認められないことが頻繁にある。
- たとえば、『心理学研究』とか『言語研究』などには、レベルの高い日本語で書かれた論文がかなり掲載されている。
- 日本語の引用文献はコンピュータで検索し難いため、Journal Citation Reportにも収録されていない。

国際的に認められるためには、日本の研究者にも論文を書くための英語力が必要である。

日本国内でのリポジトリのインパクト 広島大学の‘データ登録同意書’

January 10, 2006

Name of the Association

Chief Editor of the Journal

Professor Kunio Ito, Director

Hiroshima University Library, Japan

Agreement to allow registration of published research written by faculty of Hiroshima University for the use of the **Institutional Repository**

Hiroshima University intends to establish an Institutional Repository in order to make academic publications open to public access. To accomplish this, the Hiroshima University would like to include the following research article published by faculty members of Hiroshima University, Japan whose copyright belongs to your association, in its collection. We would like to humbly request your permission to allow Hiroshima University to register it in the Hiroshima University Institutional Repository which would make it open to public access via the Internet, free of charge. If you agree to this type of use, could you please fill in the attached agreement document of the Hiroshima University Institutional Repository and return it to us by mail.

学位論文許諾書

Agreement to allow registration of doctoral thesis in the Hiroshima University Institutional Repository

To: Director, Hiroshima University Library

I hereby agree to permit Hiroshima University to register the Doctoral dissertation specified below in the Hiroshima University Institutional Repository, where it will be open to public access via the Internet, free of charge.

Signed _____ Date

日本国内の学会独自のリポジトリ

- 2006年に広島大学図書館では本格的にリポジトリの依頼文書を国内の学会に送った。(もちろん、他の大学図書館も同じことを行った。)
- 2006年の時点では、学会は、賛否両論で、むしろ懐疑的な態度であったようである。
- しかし、2007年に入ると、学会のホームページからPDFファイルで論文がダウンロードできるような学会リポジトリを作成する方針を打ち出す学会もではじめた(たとえば、日本言語学会など)。

リポジトリに対する学会の対応の予測

- ① **会員の多い学会**・・・学会誌は会員に配布するだけでも十分であると思われるために、リポジトリには肯定的(『言語研究』, 『認知科学』など)とはいえ、それを促進するための人材も必要。
- ② **学会活動が学会誌の印刷のみに限定されている場合**・・・リポジトリは死活問題(『心理学評論』とか英語の'Psychologia')
- ③ **出版社が販売を促進している会員数の少ない学会**・・・会員数が少ないため出版社と提携して学術誌を会員ばかりでなく積極的に販売している。小規模の出版社の場合が多く、重要な財源でもある。この場合も、リポジトリには否定的である。日本語文法学会の『日本語文法』(くろしお出版)とか、『レキシコンフォーラム』(ひつじ書房)

学会独自のリポジトリの作成を行う学会もあるが、全体でみると、その数は少ないであろうと予想される。

[サイニイ](NII論文情報ナビゲータ)


- 《論文検索は無料》 《論文本文表示は一部有料》
[機関定額制]
- 広島大学は機関ユーザとして登録していますので CiNii有料版(下記図参照)を個人負担なしで利用できます(学内ネットワークに接続されたパソコンから利用してください)。

<概要>

日本の学術論文を中心に国内外の論文情報を検索できます(旧NACSIS-IR, NACSIS-ELSで提供してきた各種論文情報を統合的に提供)。文献の引用関係(どのような論文を引用しているか、また、どのような論文から引用されているか)も表示します。

サイニイの出力例

Katsuo Tamaokaの英語での検察

1. [10018073978]TAMAOKA, K. The effects of phrase-length order and scrambling in the processing of vis  presented Japanese sentences. **Journal of Psycholinguistic Research** 32,431-454,2005 ■収録データベース :CJP引用 ■本文: なし :1件
2. [10018073977]TAMAOKA, K. Priority information used for the processing of Japanese sentences : Thematic roles, case particles or grammatical functions. **Journal of Psycholinguistic Research** 34,281-332,2005 ■収録データベース :CJP引用 ■本文: なし :1件

サイニイの出力例

玉岡賀津雄の日本語での検察

1. [40015464926]柴崎,秀子; 玉岡,賀津雄; 高取,由紀 アメリカ人は和製英語をどのくらい理解できるか--英語母語話者の和製英語の知識と意味推測に関する調査. 日本語科学 21,89~110,2007/4(国立国語研究所『**日本語科学**』編集委員会 編/国書刊行会) ■収録データベース :NDL ■本文: なし
2. [40015454258]小森,和子; 玉岡,賀津雄; 近藤,安月子 第二言語としての日本語の単語認知に及ぼす文脈の影響--二言語混在文の正誤判断における抑制効果の観察を通して. **小出記念日本語教育研究会論文集** (通号 15),7~21[含 英語文要旨],2007/3/31(ISSN 13460757) (小出記念日本語教育研究会) ■収録データベース :NDL ■本文: なし
3. [10018073824]玉岡 賀津雄; 牧岡 省吾「文理解の認知メカニズム」編集にあたって. **認知科学 = Cognitive studies : bulletin of the Japanese Cognitive Science Society** 13(3),245-246,20060901(ISSN 13417924) ■収録データベース :CJP書誌 ■本文: なし

5. [10018136909]玉岡 賀津雄「決定木」分析によるコーパス研究の可能性：副詞と共起する接続助詞「から」「ので」「のに」の文中・文末表現を例に。 **自然言語処理** = Journal of natural language processing 13(2),169-179,20060410(ISSN 13407619) (言語処理学会 編/言語処理学会) ■収録データベース：CJP書誌 NDL ■本文：なし :13件
6. [40007347004]玉岡,賀津雄; 小泉,政利 フォーラム 日本文の処理におけるスクランブル効果の諸問題--Koizumi and Tamaoka (2004)に対するMiyamoto and Nakamura (2005)のコメントへの回答。 **言語研究** (129),181~226,2006/3(ISSN 00243914) (日本言語学会 編/日本言語学会) ■収録データベース：NDL ■本文：なし
11. [40007012752]玉岡,賀津雄 中国語を母語とする日本語学習者による正順・かき混ぜ語順の能動文と可能文の理解。 **日本語文法** 5(2) (通号 9),92~109,2005/9(ISSN 13468057) (日本語文法学会 編/日本語文法学会) ■収録データベース：CJP引用 NDL ■本文：なし :1件

13. [10015678163]玉岡 賀津雄 命名課題において漢字1字の書字と音韻の単位は一致するか。 **認知科学** = Cognitive studies : bulletin of the Japanese Cognitive Science Society 12(2),47-73,20050601(ISSN 13417924) (日本認知科学会 編/日本認知科学会) ■収録データベース：CJP書誌 NDL ■本文：なし :65件
14. [40007021844]玉岡,賀津雄 サンズイとイトヘンはどのくらい漢字の意味に影響するか。 **広島大学留学生センター-紀要** (15),11~24,2005(ISSN 09172955) (広島大学留学生センター- 編/広島大学留学生センター-) ■収録データベース：NDL ■本文：なし
15. [40007169286]玉岡,賀津雄; 松下,達彦; 元田,静 日本語版 Can-do Scaleはどれくらい正確に日本語能力を測定しうるか。 **広島大学留学生教育** (9),65-78,2005(ISSN 13428934) (広島大学留学生センター- [編]/広島大学留学生センター-) ■収録データベース：NDL ■本文：なし
16. [40006455760]宮岡,弥生; 玉岡,賀津雄; 母,育新 中国語を母語とする日本語学習者の文法知識が敬語習得に及ぼす影響。 **広島経済大学研究論集** 27(2),35~46,2004/9(ISSN 03871444) (広島経済大学経済学会 編/広島経済大学経済学会) ■収録データベース：NDL ■本文：なし

日本語の学術誌の論文のPDFファイル

- 日本語の学術誌(大学の紀要を含む)は, PDFファイルが用意されていない.
- サイニイで検索しても, 実際の論文は図書館で見つけてコピーすることになる.

図書館の施設としての存在意義が認められる.

論文の3層構造

この世界の論文では
機関リポジトリはあまり
使われない.

学会独自のリポジトリを
作るか, 逆に認めない
かの二極化傾向

1. Journal Citation Report
(JCR)に掲載されている論文

2. 日本国内の主要学術論文
に掲載されている論文

3. 大学の紀要や報告書など
に掲載されている論文

大学の紀要のリポジトリ

- 著作権が大学にあるので機関リポジトリが作りやすい。
- 特定大学の紀要は、一般に販売されておらず、その大学以外では入手しにくいことが多い。
- 図書館のWeb上で論文をPDFファイルがダウンロードできると便利である。
- 広島大学の全紀要が学部・研究科別にリポジトリとして保存されており、検索できて、さらにPDFファイルがダウンロードできるとすれば、非常に便利である。

名古屋大学大学院・国際言語文化研究科の Webサイトからの論文のダウンロード

<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/nichigen/menu4.html>



実際のWebサイト

第 8 号 (2007年)

はしがき (PDF)

目 次

BACK

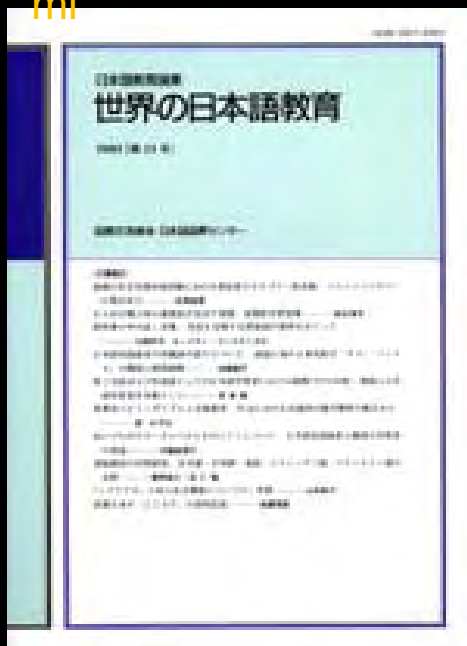
CLOSE

NEXT

Agnese Haijima	(国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程) 雪舟「山水長巻」における定型と逸脱 - 漁師、漁村、船の場面を中心に - 【PDF】
蔡 江華	(国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程) 「詩言志」一考 - 『尚書』、『論語』、『詩経』序を中心に - 【PDF】
SETH Rajdeep	(国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程) 宮沢賢治『土神ときつね』の特異性 - よだかとブドリの自己犠牲との関連において - 【PDF】
趙 青	(国際言語文化研究科日本語文化専攻満期退学) 掛詞と双関 - 日中詩歌の構造に関する一考察 - 【PDF】
王 閏梅	(国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程) 巖復の初期言論活動について - 中学と西学の葛藤 - 【PDF】
李 宛儒	(国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程) 日本統治下の台湾演劇 - 総督府が奨励した青年劇と皇民化劇をみる - 【PDF】
孫 峰茗	(国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程) 新末日本留学女子学生から見る明治良妻賢母主義教育の影 - 『中国新女界雑誌』を通して - 【PDF】
王 紅梅	(国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程) 「三菱」の創業に見る日本近代企業文化の形成と展開 - 創始者岩崎弥太郎のモラルとそのバックボーンを手掛かりに - 【PDF】


国際交流基金のWebサイトの 『世界の日本語教育』

http://www.jpf.go.jp/j/japan_j/publish/globe/13/index.html



- 日本語教育論集『世界の日本語教育』に掲載された論文は、PDFファイルでダウンロードできるようになっている。印刷した学術誌も市販もされている。

ひらがな導入時の連想法が及ぼす短期・長期的学習効果

 (PDFファイル/336KB/英語)

松永 幸子(カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校準教授)

ひらがなを第二言語、又は外国語の文字として導入する際、よく使用される導入方法の一つに連想法がある。しかしながら、その連想法が及ぼす学習効果の研究数はまだ乏しく、現在カッケンブッシュ・中条・長友・多和田の研究(1989)に限られる。カッケンブッシュ等の研究は、日本で日本語を学ぶ非漢字圏、非英語圏からの留学生を対象に、連想法の長期的効果のみが認められたと報告しているが、結果解釈に疑問点が残ることから新たな研究による確認を必要とする。又、漢字圏や英語圏からの日本語学習者を対象にした場合の効果の有無等、残された研究課題も少なくない。特に漢字圏(非ローマ字圏)、英語圏(ローマ字圏)の二グループの比較は、母語からの文字認知のストラテジーの転移(Chikamatsu, 1996; Koda, 1989; Mori, 1998)の面から見ても興味深い。

従って、本研究ではアメリカで日本語を学ぶ初級学習者を、ローマ字以外の文字を母語として既習したグループ(非ローマ字グループ)とそうでないグループ(ローマ字グループ)に分け、次の二つの仮説を立てた。

仮説1: 両グループ共に、連想法の短期的学習効果は見られない。

仮説2: ローマ字グループのみに、連想法の長期的学習効果が見られる。

本研究では、この二つの仮説を考査するにあたり、下記の四つのひらがな教授法を用い、各々の短期、及び長期的学習効果を調べた。

教授法1: 絵と音(英語のキーワード)の連合された連想法

教授法2: 絵だけの連想法

教授法3: 音だけの連想法

教授法4: フラッシュカード

結果は次の通りである。

結果1: 仮説1、2共に半分しか肯定されなかった。則ち、ローマ字グループに短期的効果が現れ、長期的効果は両グループ共に認められなかった。

結果2: ローマ字グループに、「さ行」と「た行」において強い短期的効果と弱い長期的効果が見られた。

本稿では、まず結果1をカッケンブッシュ等の研究と比較し、母語からの文字認知のストラテジーの転移を観点とし、考察する。次に結果2に現れた「さ行」と「た行」における教授法1の影響を他の三つの教授法の影響と個別比較することにより、絵と音の連合性がもたらす効果を検討し、より効果的な連想法へと導く今後の研究課題を提起する。

[目次へ](#)

論文の3層構造

この世界の論文では
機関リポジトリはあまり
使われない。

学会独自のリポジトリ
を作るか、逆に認めない
かの二極化傾向

機関リポジトリを作る可
能性と意義が大きい

1. Journal Citation Report
(JCR)に掲載されている論文

2. 日本語の主要学術論文
に掲載されている論文

3. 大学の紀要や報告書な
どに掲載されている論文

最後に...

- 機関リポジトリを進めていくと、一層、研究室で論文の検索、ダウンロード、印刷ができるようになるので、ハードウェア(施設)としての図書館の存在意義をこうした電子化以外で見出さなくてはならなくなる。